

英文学ファン必読!
写真・図版330点掲載

角形出窓、盲目窓、バラ窓、尖頭窓…

さまざまな「窓」から、イギリスの文化がわかる

イギリス「窓」事典

—文学にみる窓文化—

三谷 康之 著

A5・480頁 定価(本体9,143円+税) ISBN978-4-8169-2075-2 2007年12月刊行

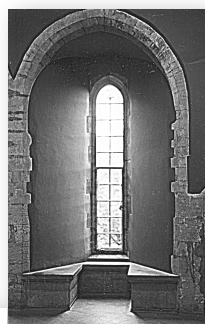
bull's-eye glass(牛の目入りガラス)



9784816920752

シェークスピア、ディケンズ、イエイツから、映画「眺めのいい部屋」まで
「窓」が登場する英文学作品・映画を引用してわかりやすく解説

- 「牛の目窓」「オリエル窓」「上げ下げ窓」などイギリス特有の数々の窓と、日よけや鉄格子などの周辺部分、窓にまつわる文化について、関連の作品を取り上げながら解説した、読み物としても楽しめる事典です。
- 様々な英文学・詩・戯曲・映画に登場した「窓」のあるシーンの原文を引用し、イギリスの風俗や慣習まで詳しく説明しています。
- 写真・図版、計330点掲載。



▲ window seat
窓座



◀ blind window
盲目窓

[目次]

まえがき

第Ⅰ部 Window Styles: 窓の種類
扇窓、絵窓、バラ窓など40種・330名称

第Ⅱ部 Window Features: 窓の周辺
錠戸、窓座、窓棚など360の呼称

第Ⅲ部 Supplement: 補遺
部屋の間取りと窓の関係／窓に関わる習慣／窓にまつわる表現／発達史など

付録 ●本文に引用した著者と作品の一覧
●本文に引用した映画作品の一覧
●参考書目
●索引

あとがき

[著者プロフィール]

三谷 康之 東洋学園大学現代経営学部教授
1941年生まれ。埼玉大学教養学部卒。1975～76年まで英文学の背景の研究調査のため、イギリスおよびヨーロッパにてフィールド・ワーク。1994～95年までケンブリッジ大学客員研究員。

●既刊・三谷康之の本●

イギリス紅茶事典—文学にみる食文化

A5・270頁 定価(本体6,600円+税) ISBN4-8169-1718-7 2002.5刊

事典・イギリスの橋—英文学の背景としての橋と文化

A5・280頁 定価(本体6,600円+税) ISBN4-8169-1877-9 2004.11刊

異文化理解を
深めるために…

2014.7

●お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業本部 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

■書店名	注文書	イギリス「窓」事典—文学にみる窓文化 定価(本体9,143円+税) ISBN978-4-8169-2075-2	冊
			冊
			冊
		■お名前	

見出し

● Oriel; Oriel Window

「オリエル窓」 出窓の1種であるが、腕木 (bracket) や持送り (cantilever) 2階から張り出す窓。2階から3階へ、あるいはさらにその上成す形で張り出している場合もある。壁面から外側へ張り出既述した角形出窓 (bay window*) や弓形出窓 (bow window*) 形になる。そうして、屋内から見れば、外側へ突き出している (recess) になっている。また、張り出す面は3面ないしは5面だし、そのふたつの出窓と異なる点は、この窓の場合は底部はということである。石づくり (stone oriel) やレンガづくり (brick oriel) 木造のもの (wooden oriel) もある。

ちなみに、腕木や持送りというのは、略述すると、バルコニーの梁など、棚状に張り出したものを、あるいは彫像などを、その「突出し」を指す。素材には石やレンガや木や金属などが飾が施されることも少なくない。

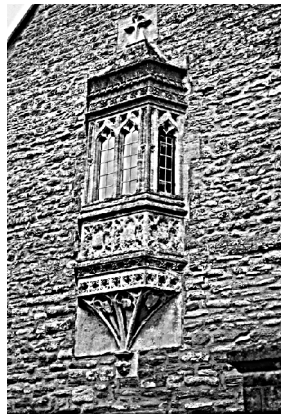
荘園領主の館 (manor house) のような大邸宅 (great house) にも、主要なものは 'great chamber' と呼ばれ2階にあった hall) に設けられていた角形出窓を小型にして、そこに取りこもることも、15世紀以降のことである。チューダー朝 (1485-1558) から、16世紀 (1558-1603) の住宅建築の特色である。

この窓は監視所 (look-out) には打ってつけて、門塔 (gatehouse) 上に設けられるのが通例。もっとも、敵の見張りだけではなく、めぐるのにも都合で、そのために取り入れられた。往々にして (Gothic style) の装飾が施されている。あるいは、城廓建築 (battlement) を備えていることもある。18世紀以降のゴシック復興 (Gothic Revival) によって、そしてその後の19世紀後半にも、さらに

宮殿や修道院や大学など豪壮な石づくりの建物の場合が、木骨づくりの家屋 (half-timber house) にも見られる。後者において、素朴で小さな木のこしらえの窓としては、W.シ

— 148 —

Oriel; Oriel Window



107. oriel window (オリエル窓)。Wells Cathedral (ウェルズ大聖堂) の付属建物。Wells, Somerset [E]



108. 持送りに彫刻の施されたオリエル窓。Lincoln Castle (リンカン城)。Lincolnshire [E]

豊富な写真

(Shakespeare's birthplace) —— イングランド中部の州ウォリックシャー (Warwickshire) のストラトフォード・アポン・エイボン (Stratford-upon-Avon) にある——のそれが挙げられる。

2層、つまり2階から3階にかけて伸びているものは、'two-storeyed [-tiered] oriel' などと呼ばれる。また、'an oriel window on the manor house' というと、「荘園領主の館のオリエル窓」、「a Gothic-style oriel on a brick terrace house' とすると、「レンガづくりのテラスハウス [連続式集合住宅] にあるゴシック様式のオリエル窓」を表す。 bay window; bow window

【文学】

oriel

W.スコットの『最後の吟遊詩人の歌』の第2曲第11連で、修道院のこの窓が美しく描かれている。デロレイン (Deloraine) がブロンクサム城の城主夫人の特命を帯

Oriel; Oriel Window

びて、月夜にひとりヒースの荒野を駆け、激流を渡り、ようやくメルローズ寺院 (Melrose Abbey) に辿り着いた場面の描写である。

The moon on the east oriel shone
Through slender shafts of shapely stone,
By foliated tracery combined;
Thou would'st have thought some fairy's hand
'Twixt poplars straight the ozier wand,
In many a freakish knot, had twined;
Then framed a spell, when the work was done,
And changed the willow-wreaths to stone.
—— Walter Scott: *The Lay of the Last Minstrel*, II.xi.113-120

(月は東側のオリエル窓を照らしていて、
葉形飾りをあしらったトレーサリーと組み合わせられた、
細身で形のよい石の窓柱の間から光は射した。
妖精が自らの手によって、
真直ぐなポプラの木々に柳の細枝を編みつけては、
そこかしこに結び目をこしらえ、完成したところで呪文を唱え、
柳細工を石のそれへと変えてしまったもの、
そう思わせるつもりであった。)

oriel window

J.K.ジェロームの『ボートの三人男』の第6章では、この窓が古き時代を忍ぶ手がかりのひとつになっている。主人公たち3人の青年は鉄道でキングストン (正式

見出しとなっている窓が登場する文学・映画のシーンの引用